

提 言 書

文化・産業のまち部会

【テーマ】

新たな観光とeスポーツによる地域振興

～発想の転換「ダムツアー」、「eスポーツ」で先駆者となれ～

1. はじめに

昨年の夏は全国的に連日猛暑に見舞われ、さらに、大型の台風や地震、豪雨と自然災害の発生も多い年でありました。

とりわけ、西日本豪雨では、本市を含め県内の各所において甚大な被害が発生し、自然がもたらした災害でありながら、下流域においては、被害が増幅した原因について、県北上流域のダム放流による「人的災害」によるものという風評被害を受けました。

昨今、頻発する異常気象に応じた緊急時の対応や相互連携において、ダム管理のあり方など様々な課題が浮き彫りになりましたが、本来ダムは、洪水調整、水資源の確保など、それぞれの大切な目的及び役割を担うために整備されたものであります。しかし、そのことについて多くの方に知られていないという現状もあり、本来のダムの働きについて理解を深めてもらう必要があります。

そこで、発想を転換させ、本市に存在する主要な6基のダム（大佐ダム、小阪部川ダム、千屋ダム、高瀬川ダム、河本ダム、三室川ダム）が持つ重要な機能、役割を流域の方をはじめ、多くの方にアピールすることにより、魅力ある新たな観光資源にもなり得るのではないかと協議を重ねてきました。

もう一点として、スポーツによる地域振興に着目しました。市内においてもソフトボールをはじめ、大規模な大会を誘致できる施設はありますが、観覧席の確保、参加選手や観客の宿泊など、市内での受け入れ態勢が十分整っているとはいえない状況です。しかし、オリンピック、アジア大会、全国大会などのスポーツは、国民を熱狂させるとともに感動を与え、多くのファンや観客を集めることができます。そこで、今、世界的に話題となっており、これから注目を浴びる「eスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）」による地域振興を他の自治体に先駆けて取り組んでいくことについて、協議を重ねてきました。

2. 具体的提言

(1) ダムを利用した新たな観光について

近年、観光資源としてダムの有効性が注目されています。「ダムカード」、「ダムカレー」などの取り組みも見られますが、関心を示す人は一部に限られています。そこで、さらにダムの魅力を広く知ってもらうため、ダムを活用した新たな観光について次のとおり提言します。

① 新見市観光協会、民間旅行代理店等と提携し、それぞれダムのアクセスを考慮したダムツーリズムを企画し、ダムファンのみならず多くの方に足を運んでもらう。

(ツアー内容の一例)

- ・千屋ダムにはダムの模型やビデオ映像などの展示スペースがあり、それらを活用した見学。
- ・春の新緑、秋の紅葉など新見の自然を満喫できるダム周辺の散策や湖面の遊覧船巡り。
- ・安全性を考慮し、カヌー、ジェットスキー、ブラックバス釣り、ワカサギ釣り等の体験。
- ・ダム堰堤内部の見学。
- ・ドローンを利用してダム湖面、堰堤を撮影し、その迫力ある映像を觀賞しながら、現地でダムカレーの喫食。
- ・ダムの観光放流やライトアップ。
- ・ダムと新見特産品を巡るツアー。
- ・ダムカード、ダムカレーカードとスタンプラリーを組み合わせたツアー。

② ダムに関する正しい知識を身に付けるため、児童、生徒にダムの目的や役割を現地で学習できる機会を提供し、学校の遠足コースの提案や親子見学ツアーなどを企画する。

(2) eスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）の振興

「eスポーツ」と聞くと、「ゲーム」や「遊び」を連想される方が多く、スポーツと思われる方は少ないかもしれません。しかし、世界では、スポーツ（競技）として既に確立されており、競技人口は、1億人以上ともいわれています。日本は他国に比べると「eスポーツ」においては後進国であるといえます。

今年の茨城国体では競技種目に決定し、2022年のアジア大会やオリ

ンピックでも正式種目としての検討もされており、今後の発展が大いに期待される種目です。

情報通信分野の技術革新は「日進月歩」であり、携帯電話やインターネットの爆発的な普及に象徴されるよう、「eスポーツ」においても同様の状況が発生する可能性があります。この流れを好機ととらえて早期に取り組んでいくことは、本市にとって有益になるものと考えます。

幸い本市には、既に市内全域に高速インターネットが利用可能な光ファイバー網が整備されており、また、市内には全国でも数少ない「eスポーツ」を部活動として取り組んでいる高校もあることから、「eスポーツ」に取り組むには恵まれた環境であるため、「eスポーツ」による地域振興について、次のとおり提言します。

- ① 「eスポーツ」の推進団体である、日本eスポーツ連合（東京）は、今後、全国に支部組織を開設する計画で、まずは岡山県を含めた11都道府県に支部を設立する予定としている。他の自治体に先駆けて本市で、「eスポーツ」の競技ができる環境を整え、岡山県の支部に名乗りを上げ、県下のeスポーツの聖地を目指す。
- ② 「eスポーツ」は「頭脳競技」ともいわれており、「集中力」、「持久力」、「コミュニケーション能力」などを高める効果が期待されます。
将来、本市からeスポーツ競技において全国大会や世界大会レベルで活躍する優秀な選手を輩出できるよう、育成の支援に努める。
- ③ 本来、「スポーツ」は体を動かす運動のみではなく、「競技」という意味であり、「eスポーツ」は「エレクトロニック・スポーツ」という分野の新たなスポーツであることを広く周知・啓発し、「eスポーツ」の普及や機運の醸成に努める。

3. まとめ

本市は、観光などにおいて活用やPRできる地域資源が豊富にありながら、有効利用されず埋もれているものがあるように見受けられます。人口減少が進んでいく中、本市において最優先で取り組まれている「協働」や「共生」などの手法を用いて、新しい視点や発想を生み出し、時代の流れに即応できる柔軟な行政運営に努められるよう期待しております。

「固定観念」ととらわれず、「既存概念」を破り、柔軟で新しいことに挑戦する「まちづくり」に期待し、今回の提言といたします。